特別の教育課程の編成方針

令和８年度　小林北小学校　特別の教育課程の編成方針

１　特別の教育課程の内容

（１）教科、時数等

小学校第１、第２学年において「外国語活動」を行う。

・第１学年は生活科を３４時間削減し、「外国語活動」を行う。

・第２学年は生活科を３５時間削減し、「外国語活動」を行う。

・全学年の「外国語活動」及び「外国語科」の名称を「英語科」とする。

（２）実施期間

令和８年４月１日～

２　特別の教育課程を編成する必要性

（１）印西市の取組から

印西市においては、小・中学校へ週１～５日、幼稚園へ月１回、外国人指導助手（ＡＬＴ）を配置し、主に授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。また、イングリッシュアカデミーホップ・ステップ（小学校３～６年生対象）・ジャンプ（中学校２・３年生対象）を開催し、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

このように、市全体で外国語教育の充実を図ってきたところである。

現行学習指導要領の下においても、全学年の外国語教育の量と質を確保し、中学校へのスムーズな接続やさらなる授業改善に努めていくため、１、２年生の「外国語活動」を実施する。

（２）本校の取組から

本校では、学校教育目標である「心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成」を目指し、とりわけ外国語教育においては、印西市の先進的な指針に基づいた教育活動を推進してきた。６年間の系統性を重視したカリキュラムを構築し、英語を通したコミュニケーション能力の育成に注力する中で、異文化を尊重する豊かな心と、未知の言葉にも物おじせず進んで学ぼうとする態度の醸成を図っている。低・中学年では、英語教育コーディネーターや ALT との活動を通じて英語の音やリズムに親しむ機会を充実させ、高学年では ICT を活用しながら、自分の考えを主体的に伝え合う実践的な学

習を積み重ねてきた。

これらの継続的な取組の成果は、児童の意識調査にも明確に表れている。令和８年３月に実施したアンケート結果では、特に最上級生である６年生において、「英語科の授業が楽しい」と回答した児童が１００％に達しており、全員がALTやコーディネーターと一緒に学ぶ時間を肯定的に捉えている。また、低学年においても「英語を聞いたり話したりすることが好き」と回答する児童が圧倒的多数を占めており、早期からの英語接触が、児童の「進んで学ぶ」意欲を喚起し、学習に対する高い自己効力感を育む上で極めて有効に機能していることが裏付けられた。

一方で、グローバル化が進む社会の中で、本校が掲げる「心豊かで、進んで学ぶ」児童をさらに高い次元で育成するためには、現在の時数内での指導に留まらず、低学年からさらに一歩踏み込んだ言葉の基盤作りが不可欠である。児童が抱く英語への高い関心と学習意欲を最大限に伸ばし、中学校での学習へも円滑に接続できるよう、特別の教育課程を編成し、低学年からの組織的な英語教育を一層推進するものである。

３　特別の教育課程を実施するにあたっての配慮事項

・生活科の削減分については、年間指導計画を見直し、生活科の目標を達成できるようにする。
・市教委作成の指導計画を活用し、１、２年生の児童の発達段階や３、４年生の「外国語活動」への接続、６年間の系統性を踏まえた活動となるようにする。
・全ての授業を担任等と外国語指導助手（ＡＬＴ）・英語教育コーディネーターとのティームティーチングで行い、ネイティブの発音に繰り返し触れることができるようにする。
・英語を取り入れた校内環境整備や外国語指導助手（ＡＬＴ）を活用した授業等、児童が英語に慣れ親しめるような環境づくりを学校全体で計画的に行う。
・特別の教育課程について、保護者や地域住民、学校関係者への周知を行い、理解を得る。
・令和８年度より、英語マスターを高学年全員で取り組み、英語を通したコミュニケーション能力の育成を目指す。